

## 「ボランティア養成セミナー」

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30名	27名	27名	26 (福井 11、京都 7、愛知 3、滋賀 3、奈良 1、岐阜 1) 1名葬儀のため欠席

### 2. 事業内容（概要）

#### ◆ねらい

- ・ 青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・ ボランティア活動に対する意欲を高める。
- ・ 当施設でのボランティア活動に必要な知識や技能を習得する。
- ・ 文科省「青少年体験活動総合プラン 小学校長期自然体験活動支援プロジェクト 自然体験活動指導者養成事業」における「補助指導者養成」を行う。

#### ◆期日・期間

2012年5月3日（木）～ 2012年5月5日（土） 2泊3日

#### ◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

#### ◆参加者分析

- ・ 大学のサークル単位の参加があったほか、継続して例年参加している受講者が友人・知人を積極的に勧誘したことで、参加者に広がりが見られ、学生が多数を占めた。

#### ◆ 企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5月3日（木）				受付	開講式	講義 「青少年教育の理解」	昼食・休憩	実習 「体験から学ぶ」			夕食・休憩	講義 「ボランティアの意義」		入浴	情報交歓	就寝
5月4日（金）	起床 洗面 朝のつどい など	朝食	実習 「救命救急法」		昼食・休憩	実習 「シーカヤック」					夕食・休憩	講義 「ボランティアの理解」 「施設の現状」		入浴	情報交歓	就寝
5月5日（土）	起床 洗面 朝のつどい など	朝食	実習 「野外炊事」				閉講式	※ 希望者 実習 「シーカヤック」 当初はスノーケリングの予定であったが、4日の海況悪化で中止となった実習をここで実施した。								

- ・ 講義：「青少年の理解」・ 実習：「体験から学ぶ」  
講師 (株)プロジェクトアドベンチャー ジャパン 杉村 厚子 氏
- ・ 講義：「ボランティアの意義」・ 講義：「ボランティアの理解」・ 実習「野外炊事」  
講師 びわこ成蹊スポーツ大学教授 中野 友博 氏
- ・ 実習：「シーカヤック」  
講師 グランストリーム 大瀬 志郎 氏
- ・ 実習：「救命救急法」  
講師 若狭消防署 救急救命士

- ・ 機構のカリキュラムが講義・実習の輪切りにならぬよう、また講師の指導が単発にならぬよう、期間を通じての「学びの視点」を意識してもらうことを目指した。そのため、初日に体験学習法についての理解を深めるよう講座を配置した。また、講義・実習をつなげるコーディネート役として、事業評価委員でもある中野友博教授をお願いした。

◆運営のポイント

- ・ 参加者の経験を発表し合う場面設定や、自由交歓の場を設けることで、各人の体験を共有し、お互いに高め合うことができた。
- ・ 参加者のニーズに合わせ自主講座やオプション講座を設定したが参加者からは好評であった。

◆安全管理のポイント

- ・ シーカヤック実習では海況を的確に判断し、無理をせず屋内実習と座学に振り替えた。また、海況が好転したためオプション実習の内容を振り替えることで当初の予定通りシーカヤック実習を参加者に履修させることができた。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	74%	26%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	78%	12%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	74%	26%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・ いろいろな人に出会う機会があってよかった。とても勉強になった。
- ・ 手際よくわかりやすい説明や講義が多かった。大変参考になった。
- ・ 質問にも丁寧に答えてもらえて満足した。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 当施設で今後実施する予定の活動を実習プログラムとして構成したことで、参加者にとって今後の活動をイメージしやすいものとなった。
- ・ 講義に加え当施設でのボランティア経験者からの体験談も交えたことにより、これから自然体験のボランティアを志すものにとって、理解を深めることができ、意欲を高めることができた。
- ・ 今年度の試みとして、当施設での一般的な利用方法についての講座を組み入れたが、初めての参加者からは具体的なイメージを掴めたとの声があり、継続して参加している方からは改めて確認する機会になった、初心に戻った等、大変好評であった。

(2) 課題

- ・ 受講者を活用していく場の提供に一層の工夫が求められる。せっかく受講してもらっても、活躍の機会が限定されることの無いように、当施設に限らず機構全体のボランティアとして幅広く活動できるような情報提供に取り組んでいきたい。

5. 活動の様子

《体験から学ぶ》



《シーカヤック》



《野外炊事》

